

平成 29 (2017) 年度 相愛中学校・高等学校「学校評価」

1. めざす学校像

相愛中学・高等学校では、相愛学園創立 125 周年を機に、「建学の精神」に立ち戻り、2014 年度に『魅力ある学校づくりのための「中期基本計画」－教学面を中心として－を改めて教育理念を定め、また教育方針を確認した。

これは、学園教育理念「當相敬愛」を単にスローガンで終わらせず、本校のすべての教育活動の基軸に据え、「自己肯定感」・「関係性の力」をキーワードに、「當相敬愛」を軸にして進化した独自の人間形成教育に努める。教育活動として、現代の時代状況に応じる「新しい学び」として、「学習力」強化・「人間力・こころの教育強化」の推進・「国際教育」の充実を 3 本柱とした。しかしながら、中期基本計画の策定から 4 年が過ぎ、社会状況が変化したこと、中期基本計画をもとにした教育改革の推進状況、生徒募集活動の状況等から、「中期基本計画」を見直し、相愛中学校・高等学校の教育活動に関する将来構想の策定を行うことが急務である。策定にあたっては、中期基本計画を踏まえ、本校の教育活動の歩むべき方向性を、理想的視点ではなく、小規模校に位置する本校の経営的現状と社会動向、あるいは保護者や生徒のニーズを踏まえた現実的視点をもとに再構築することで、より実行性と効果性のある将来構想を 2018 年度中に策定し、「建学の精神」に基づく学園教育理念の具現化をめざす。

2. 中期的目標

1. 学習力強化

- ・卒業時に学力だけでなく人間的に成長できる学習指導を行う。
- ・外部への情報発信への取り組み、新大学入試制度に対応した教育改革へ取り組む。

2. 人間力・こころの教育強化の推進

- ・自らの「意見形成」を行い、発言・行動できる力を身に付ける。
- ・「宗教行事」・「クラブ活動」を通じ、互いに影響を与え合い、高め合う人間関係形成力を培う。
- ・29 年度策定の「宗教改革プラン」の実行。

3. 国際教育の充実

- ・生徒の英語コミュニケーション力の向上とグローバル社会へ対応、理解を深める。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [2017 年 12 月実施]	学校評価委員会からの意見
○生徒 ここ数年の傾向と大きく変わったところはないが、一昨年、昨年よりも全体的に評価が上がっている。やや評価の低かった授業の進み方や宿題の量や内容、問題対応についても評価がよくなっており改善が認められる。しかし、学習面の項目においては他の項目と比べてまだ低く、より一層の改善が求められる。今後の改善については質問項目等の再検討も必要である。 ○保護者 過去 3 年間の比較において、ほとんど変化がないが、生徒に比べ全体的に高評価となっている項目が多い。その中で、進	「相愛」の認知度について、特に若い世代に低いようである。より在校生を含め学校全体で、積極的な広報やアピールが必要ではないか。 ここ数年で生徒・保護者・教員のギャップは縮まっているようである。しかし、学習面や進路指導面においては、依然として開きがあり、2020 年度からの「大学入学共通テスト」導入など、高大接続にかかる新しい入試制度への対応策に意識の差が出ているのではないか。 例年、生活面での評価は高いが、生徒の変化・成長について、生徒・保護者の気持ちに寄り添った指導をしていただきたい。昨年度からの繰り返しになるが、今までの相愛の良さ「相愛

路に関する項目において、生徒よりも保護者の評価が低くなっている。近年、保護者の進路に対する関心が高く、学校側の対応・説明が十分でないと感じている保護者が多いのではないかな。 ○教員 学習指導の項目で、生徒・保護者の評価と開きがあり教員評価が高いのに対し、生徒・保護者評価はあまり高くないままで、ここ数年改善されていない。次年度に向け、乖離している内容が少しでもわかるように、アンケート項目の変更を検討したい。また、引き続き授業アンケートの実施、教員へのフィードバック、授業改善案の提出などを行い学習面での意識の開きを埋めるようにしたい。大学進学対応と施設・設備の項目が、生徒・保護者と著しく開きがあり低い評価となっている。また、小テスト・朝読書等の学習効果の項目で、本年度極端に下がった点が気になる。 数年間アンケート項目を変えず行ってきたが、次年度は生徒・保護者・教員の三者間で開きがある質問や、評価の低い質問についてはより問題点が明確になるような質問内容に変更し、より良い学校になるよう、教職員一同努めてまいりたい。	カラー」を望んで入学させている保護者も多いので、学力向上と共に「相愛らしさ」の教育を維持して欲しい。 100%満足するということは難しいことなので、短所を長所で補っていけばよいと思う。 生徒・保護者・教員の三者間ギャップを埋め、評価点を向上させるなど、よりよい学校とするため、授業アンケートや学校アンケートだけでなく、龍谷総合学園全体でのアンケート結果など、他校との比較を含めた幅広いアンケートの活用を考えてはどうか。
--	--

3. 本年度の取組み内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習力強化	(1)学力の向上 ア 教育改革の推進 (将来構想委員会) イ 外部への情報発信への取り組み ウ 教育改革への取り組み	ア 2014 年度に策定された「中期基本計画」を基に具体的な将来構想を策定するため基本となる策定方針を定める。 イ 相愛大学との共同し「食事の言葉」のイメージソング作成 ウ アクティブラーニングを取り入れた高大連携授業の実施	ア 具体的方針の提示 イ 社会貢献 ウ 生徒の学習意欲向上	ア 具体的検討部署となる「将来構想委員会」の設置、将来構想の策定方針の作成、主要改革テーマなどを提示できるよう検討を行った。 イ 相愛大学人間発達学部発達栄養学科の要請により、大学・高校・中学をあげて「食事のことば」のイメージソングの作成（歌唱）に協力した。製作したCDは広く幼稚園などに配布した。 ウ 教育連携校である龍谷大学の教授によるサイエンスカフェを実施。受講した生徒は大学での学び体験や、学問への興味、関心を深めることができた。

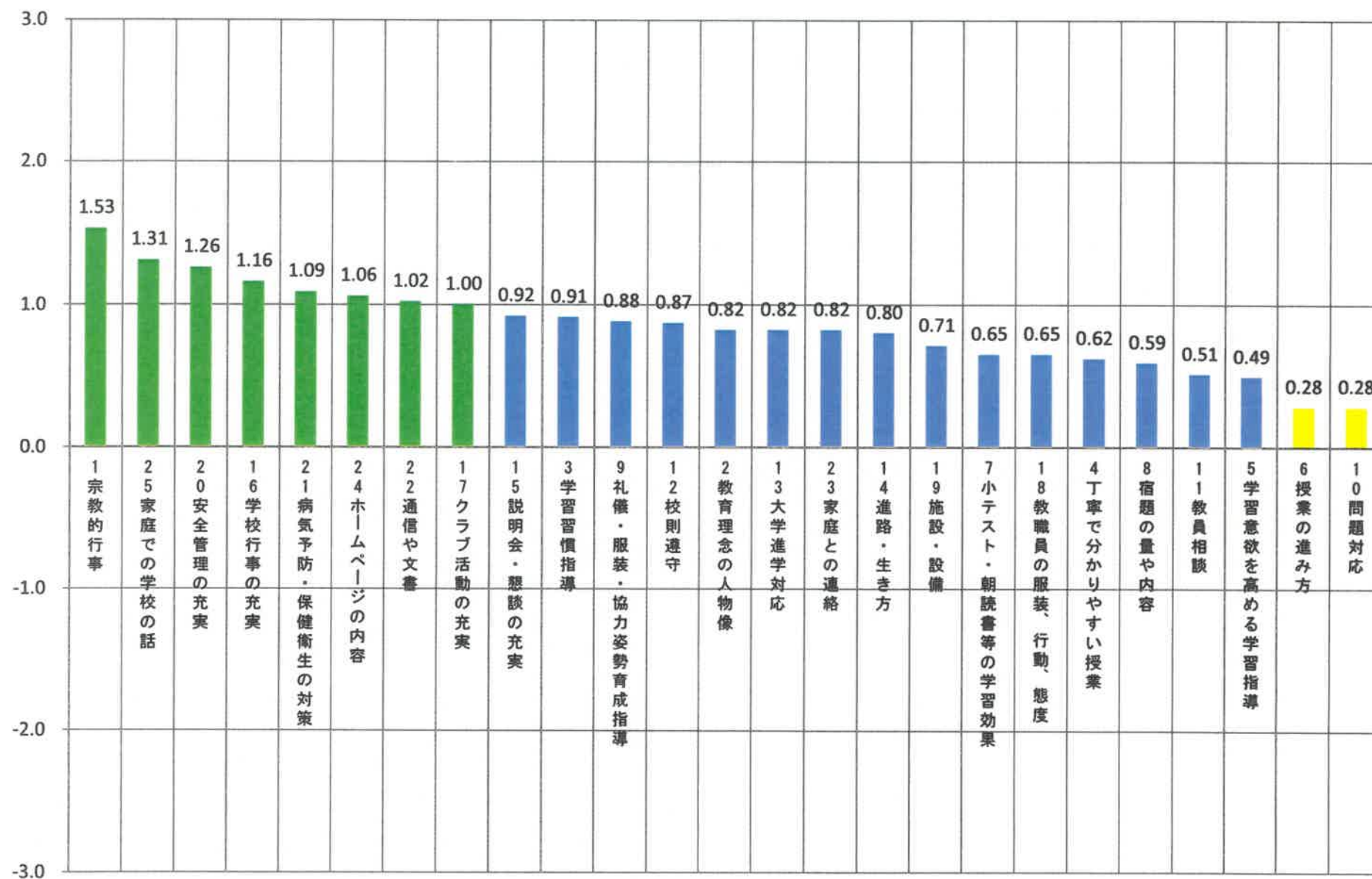
2 人間力・こころの教育強化推進	(1)進路指導 ア 進路指導とキャリア教育の充実	ア 生徒の希望を叶える進路指導とその後につながるキャリア教育の充実	ア 生徒・保護者の満足度向上と合格実績向上	ア 1年生では教育連携大学協力のもと、大学進学や将来を考えるためのガイダンスや職業別ガイダンスを実施、2年生では学問別のガイダンスや関係大学への見学会を実施し、大学進学後のミスマッチによる退学や進路変更をなくすため、目的意識・目標が持てるように指導を行った。自分の将来像が見えるキャリア教育を進学につなげるための取り組みを行った。 進学実績については 29 年度卒業生のうち、神戸大学他国公立 4 名の合格者を出した。
	(2)行事の充実 ア 各種行事の充実	ア 宿泊行事を見直し、より充実を図る。	ア 生徒・保護者の満足度向上	ア 高校修学旅行を 29 年度より海外（グアム）から国内（北海道）へ変更した。次年度は 31 年度入学生以降の中学生・高校生の宿泊研修旅行について再検討を行う。
		イ 音楽科行事の充実	地域に向けた演奏会実施	イ 従来開催していた演奏会のいくつかを集約し、第一回定期演奏会を開催した。広く地域へ広報を行い、一般の来場者も多数あり盛況であった。生徒は、外部の方が多くおられる中で公演を経験することによりより、高い演奏力や表現力を磨くことができた。多くの来場者から称賛の声をいただいた。
	(3)宗教教育 ア 宗教教育プランの実行	正門の変更・宗教行事への参加	生徒・保護者の満足度向上	29 年度より津村別院側山門経由の通学路を正門とした。また、建学の精神のもととなる浄土真宗本願寺派、ご門主の伝灯奉告法要に生徒全員で参拝したり、隣接する津村別院での法要や行事に積極的に参加するなど、地域住民とともに宗教とかわるることにより建学の精神の具現化にいつそう努めた。

3 国際教育の充実	国際交流プログラム ① 国際交流プログラム	ア ハワイPacific Buddhist Academy (以下、「PBA」)での語学研修プログラム実施 (中3～高3対象) イ イギリス「バンガー大学」への研修プログラム ウ ニュージーランドへの語学研修プログラム (中3対象) エ オーストリアへの演奏技能、音楽文化理解研修	参加者の満足度並びに、交流校の評価向上	ア 本校と建学の精神を共にする、PBAでの語学研修を夏期に短期・中期で実施。ホームステイやPBAの生徒との交流・異文化体験を通し国際感覚を磨く機会を設けている。中期では1ヵ月間PBAの通常授業で学習する研修を実施した。29年度は中期に2名参加。 イ イギリス「バンガー大学」とも教育連携を結びホームステイやフィールドトリップを通して英国の歴史や文化を学ぶ。29年度は4名参加。 ウ 現地校へ通いながらホームステイし語学研修を行うとともに自主性を養う機会としている。29年度は3名参加。 エ 音楽科を中心に中学・高校全生徒を対象に隔年で研修を実施している。オペラ鑑賞やレッスンを受けることにより、演奏技能の向上、音楽文化の理解を図った。29年度は参加者17名
-------------------------	-------------------------------------	--	----------------------------	--

質問文(保護者)

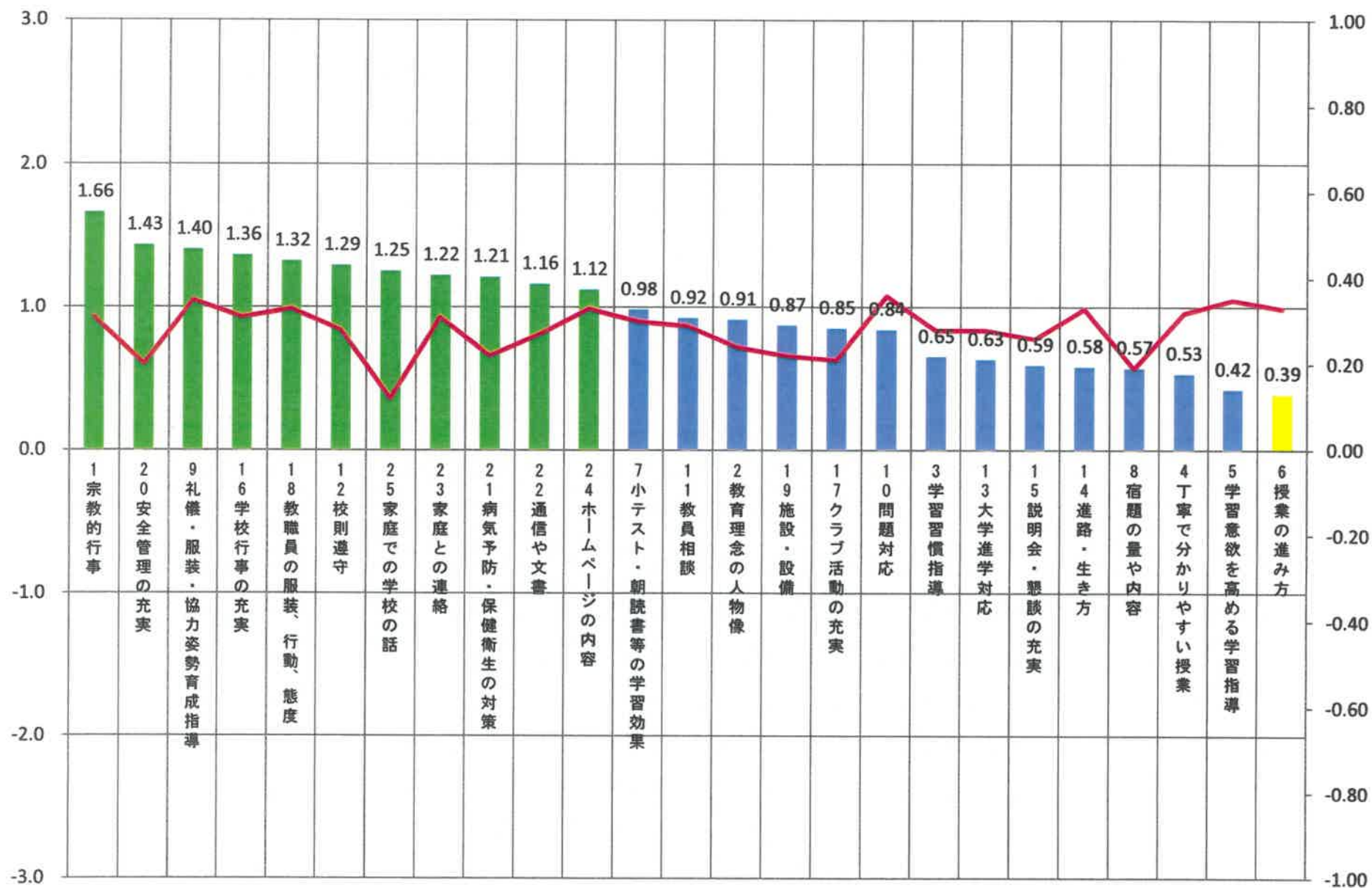
- 1.朝夕の礼拝を含めて、宗教的行事が教育の中で大切にされていること
- 2.学校の教育理念に示された人物像に一步ずつ近づいていること
- 3.学習習慣がしっかりと身に付くための指導が行なわれていること
- 4.丁寧で分かりやすい授業が行われていること
- 5.学習指導については、学習意欲を高める取組がされていること
- 6.授業の進み方が適切で、授業につまずかないように配慮されていること
- 7.小テスト、朝読書等により学習効果が上がっていること
- 8.宿題の量や内容は適切であること
- 9.礼儀、服装、周囲との協力姿勢を育成する指導を重視していること
- 10.学校や教員は、いろいろな問題を見逃さず対応してくれていること
- 11.悩みや困ったことがあった時、教員(担任以外を含めて)に相談することができること
- 12.生徒は、校則を理解し守っていること
- 13.授業や課外学習などの学校の学習で、大学進学に対応できること
- 14.ホームルームの時間などに将来の進路や生き方について考える機会があること
- 15.進路および学習指導に関する説明会・懇談などが充実していること
- 16.体育祭、文化祭、宿泊行事等、学校行事が充実していること
- 17.クラブ活動は充実しており、活発に活動していること
- 18.教職員は、職務にふさわしい服装、節度ある行動、態度がとれていること
- 19.学校は教育を行う上で十分な施設・設備を備えていること
- 20.学校の防犯、防災をはじめとする安全管理は充実していること
- 21.学校は、病気予防・保健衛生の対策をしっかりとしていること
- 22.学校からの通信や文書(具体的な名称)などで学校の様子が家庭によく伝わっていること
- 23.担任は家庭との連絡を大切にしていること
- 24.本校のホームページの内容は十分であり、適切な情報が提供されていること
- 25.お子様が家庭で学校の話をすることが多いこと

2017年度 在校生の満足度順位

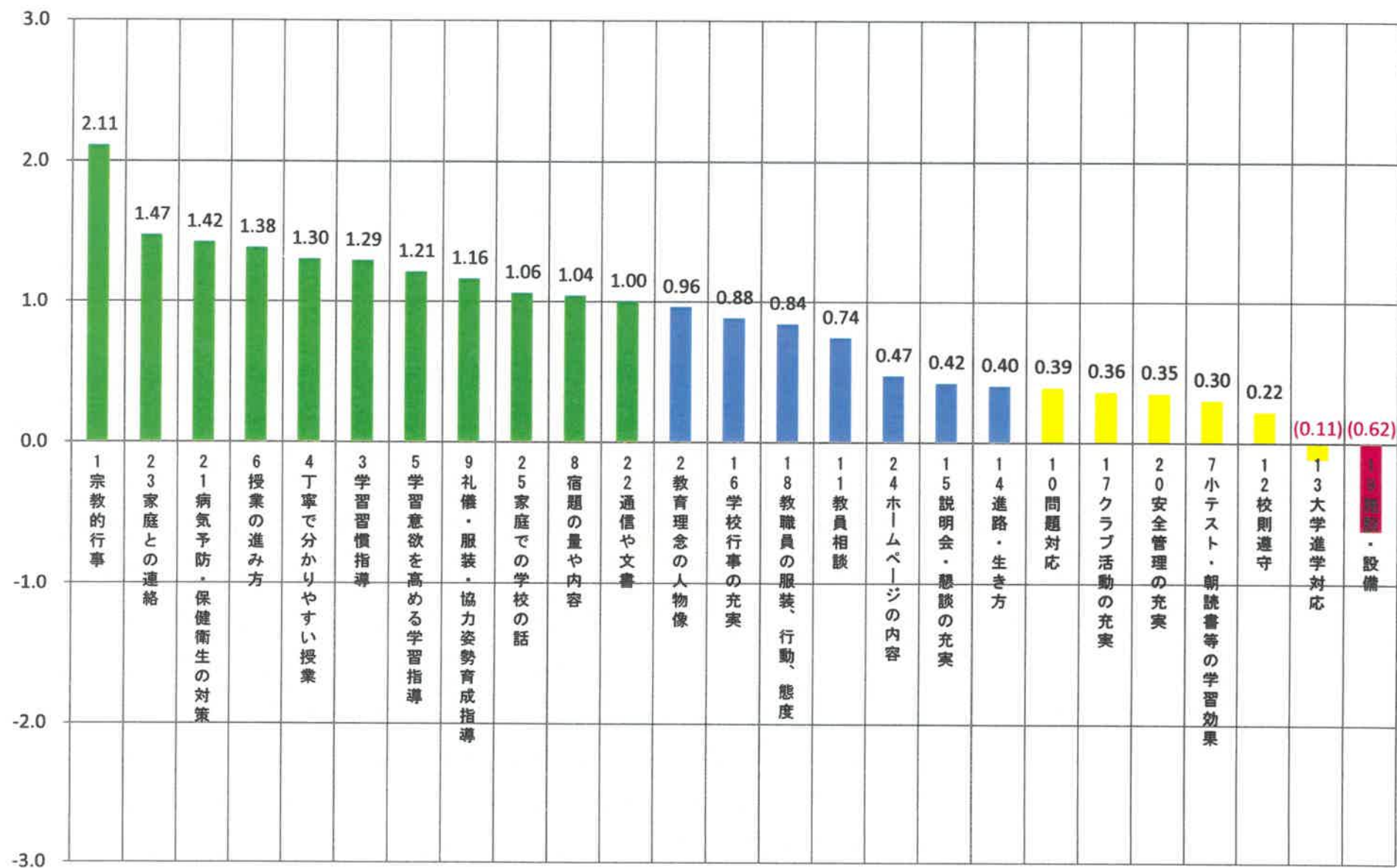


2017年度 保護者の満足度順位

※赤色の折れ線グラフは別途質問項目「総合満足度」との相関係数
(グラフ右側縦軸目盛)を表す。



2017年度 教員の満足度順位



2017年度 保護者・在校生・教員の三者間比較

